

平成 27 年度

病害虫発生予察情報

第 13 号

9 月 予 報

北海道病害虫防除所 平成 27 年 8 月 27 日

<http://www.agri.hro.or.jp/boujoshou/>

Tel:0123(89)2080・Fax:0123(89)2082

季節予報（付記）によれば、9 月の天気は数日の周期で変わり、平年に比べ晴れの日が多く、降水量は平年並か少ない確率が 40%と予報されています。

これまでの発生状況と季節予報から、多めの発生が予想される病害虫は、水稻のヒメトビウンカ、アカヒゲホソミドリカスミカメ、あぶらな科野菜のモンシロチョウ、りんごの斑点落葉病です。

9 月に注意すべき病害虫

作物名	病害虫名	発生予想		注意事項および防除対策
		発生期	発生量	
てんさい	褐斑病	既発	並	散布間隔が開きすぎないようにするとともに薬剤の選択にも注意する。

A. 水稻

いもち病（穂いもち） 発生期：既発（やや早） 発生量：並

1. 発生経過と予報の根拠

- (1) いもち病は弱い雨が長期間続いたり、寡照によって水稻の抵抗力が低下すると多発しやすい。発病適温は 20～25℃であり、最低気温 16℃以上で発病の危険がある。穂いもちは葉いもちの病斑が伝染源となることから、葉いもちが多いと多発しやすい。
- (2) 予察田の「きらら 397」における葉いもちの発病度は、8 月 4 半旬時点で、岩見沢市では 30.5（平年：11.5）と平年より高く、北斗市では 27.0（平年：17.0）と平年よりやや高く、比布町では 44.0（平年：38.2）と平年並であった。
- (3) 予察田の「きらら 397」における穂いもちの初発期は、北斗市では 8 月 5 日（平年：8 月 15 日）と平年より早く、岩見沢市では 8 月 11 日（平年：8 月 16 日）と平年よりやや早かった。比布町では 8 月 5 日（平年：8 月 7 日）と平年並であった。発生量は 8 月 4 半旬時点で岩見沢市および北斗市で平年よりやや多く、比布町では平年より少なく推移している。
- (4) 8 月 3 半旬の巡回調査では、いずれの地点でも葉いもちの発生を認めていない。
- (5) 9 月の気温は平年並、降水量はやや少ないと予報されている。
- (6) 以上のことから、穂いもちの発生量は平年並と予想される。

2. 防除対策

- (1) 粃殻やわらは翌年の伝染源となるので、ハウスや水田周辺に放置せずに適正に処分する。発生田では特に留意する。

ウンカ類 発生期（ヒメトビウンカ第 3 回）：やや遅 発生量：やや多

1. 発生経過と予報の根拠

- (1) ヒメトビウンカおよびセジロウンカは高温少雨条件が続くと密度が高まりやすい。
- (2) 予察田による 8 月の第 2 回ヒメトビウンカ成虫誘殺数は、いずれの地点とも平年並であった。セジロウンカ成虫誘殺数は、北斗市で上旬に平年を上回った他は平年よりも少ない。
- (3) 予察田によるヒメトビウンカ第 3 回成虫の誘殺初発期は、長沼町では 8 月 10 日（平年：8 月 12 日）で平年並だった。北斗市（平年：8 月 23 日）では誘殺が少なく判然とせず、比布町（平年：8 月 22 日）では 8 月 20 日時点で第 3 回成虫の誘殺を認めていない。
- (4) 予察田におけるすくい取りによる捕獲数は、ヒメトビウンカ成虫、ウンカ類幼虫共に長沼町、北斗市で平年よりも多く、比布町で平年並である。セジロウンカ成虫の捕獲数はいず

れの地点においても平年並である。

- (5) 巡回調査による8月3半旬の水田内すくい取り調査において、防除が必要な密度(成虫: 1,800頭、または幼虫: 900頭)に達している地点は認められておらず、捕獲数が10頭を上回ったのは全76地点中3地点に止まった。
- (6) 9月の気温は平年並、降水量はやや少ないと予報されている。
- (7) 以上のことから、ヒメトビウンカの発生期は平年よりやや遅く、発生量は平年よりやや多い、セジロウンカの発生は平年並と予想される。

2. 防除対策

- (1) 水田内すくい取りで成虫1,800頭(幼虫900頭)以上になると吸汁害が発生する恐れがある。この程度の高密度になる見込みがなければ防除は不要である。

アカヒゲホソミドリカスミカメ (第3回)

発生量: やや多

〈8月5日付け注意報第2号発表〉

1. 発生経過と予報の根拠

- (1) 本種は高温少雨条件が続くと密度が高まりやすい。
- (2) 予察灯による7月の第2回成虫誘殺数は、長沼町および北斗市で平年より多く、比布町では平年より少なかった。8月の誘殺数は、長沼町、比布町では平年より少なく、北斗市では平年より多く推移している。
- (3) 予察田におけるすくい取り数は、長沼町では成虫は平年並、幼虫はやや多く、北斗市では成虫は平年よりやや多く、幼虫は多い。平年の捕獲数が少ない比布町では捕獲が認められていない。
- (4) 一般田の巡回調査では、8月3半旬の水田内すくい取りにおいて、発生モニタリングによる追加散布の基準となる捕獲数(「きたくりん」: 3頭、「吟風」: 3頭、「きらら397」: 2頭、「ななつぼし」: 1頭)以上の捕獲は、全76地点のうち空知、石狩、胆振、日高地方の計8地点で認められた。その多くは捕獲数1頭であった。
- (5) 9月の気温は平年並、降水量はやや少ないと予報されている。
- (6) 以上のことから、第3回成虫の発生量は平年よりやや多いと予想される。

2. 防除対策

- (1) 防除ガイドに準拠して適切に対応する。
- (2) 加害期間は水稻の黄熟期までであり、その後の防除は不要である。

小麦のなまぐさ黒穂病が全道各地で発生しています！

近年、小麦のなまぐさ黒穂病がこれまで発生の見られなかった地域でも確認されています。本病は発生すると減収するだけでなく、異臭のために生産物の品質を著しく低下させ廃棄処分となります。

本病の伝染経路は、種子伝染と土壌伝染が知られています。種子による発生と考えられる事例は、自家更新種子の利用があげられます。一方、土壌伝染による発生については十分な知見が得られていませんが、本病は発生がわずかな段階では見つけにくいので、気づかないうちに土壌汚染が進んでいる可能性があります。

このため、まだ発生の認められていない地域においても、は種時期における本病の予防対策を徹底しましょう。

は種時期の防除対策

1. 未発生ほ場で作付けする。また連作や短期輪作は避ける。
2. 購入種子を使用し、種子消毒を徹底する。
3. 地域ごとのは種適期を遵守する。は種が遅れると低い地温(15℃以下)に遭遇し、病原菌の発芽や感染に好適条件となるので、遅まきしない。
4. は種後に土壌水分が高い状態が続くと感染しやすいので、今後の雨の状況を週間予報などで確認しては種時期を決定する。
5. 適正な深度には種する。は種深度が深くなると出芽が遅れ、本病の感染リスクが高まるので深まきをしない。

発生生態や病徴写真など、詳細は北海道病害虫防除所のHPをご覧ください。
(「北海道病害虫防除所」で検索)

B. てんさい

褐斑病	発生量：並
-----	-------

1. 発生経過と予報の根拠

- (1) 褐斑病菌の分生子の形成温度は 17～29℃（最適温度は 24～25℃）、湿度は 85%以上が必要とされており、高温多湿な条件で本病が発生拡大する。本病の潜伏期間は 30℃で約 7 日、15℃で約 20 日であり、若葉に比べ老葉で期間が短くなる。
- (2) 予察ほにおける 8 月 4 半旬の発病度は、長沼町の「あまいぶき」で 20.3（平年：46.2）と平年より低く、訓子府町の「リッカ」で 27.2（平年：38.5）と平年よりやや低かった。一方、芽室町の「あまいぶき」で 40.4（平年：40.3）と平年並であった。
- (3) 8 月 3 半旬の巡回調査では、全道各地で発生が認められ、十勝およびオホーツク地方では一部発生の多い地点も認められている。
- (4) 9 月の気温は平年並で、降水量はやや少ないと予報されている。
- (5) 以上のことから、褐斑病の発生量は平年並と予想される。

2. 防除対策

- (1) 気温が高く推移し、降雨があると本病が急激にまん延する可能性が高い。その場合には、9 月以降も散布間隔があきすぎないように注意しながら防除を継続する。
- (2) 低感受性菌や耐性菌の密度増加を防ぐため、同一系統の薬剤の連用は避ける。

ヨトウガ（第 2 回）	発生期：既発（並）	発生量：やや少
-------------	-----------	---------

1. 発生経過と予報の根拠

- (1) 第 1 回幼虫による 8 月 1 半旬の被害程度は、長沼町で 51（平年：65.1）、訓子府町で 20（平年：39.1）、芽室町で 28（平年：44.7）と、いずれの地点も平年より低かった。
- (2) 予察ほにおける第 2 回産卵初発期は、芽室町で 8 月 3 半旬（平年：8 月 3 半旬）と平年並、訓子府町で 8 月 3 半旬（平年：8 月 4 半旬）と平年よりやや早かった。長沼町（平年：8 月 1 半旬）では産卵が確認されていない。
- (3) 予察灯による第 2 回成虫誘殺数は、いずれの地点でも平年より少ない。予察ほにおける卵塊数は、長沼町（産卵未確認）、芽室町では平年より少なく、訓子府町では平年並である。
- (4) 9 月の気温は平年並、降水量はやや少ないと予報されている。
- (5) 以上のことから、発生量は平年よりやや少ないと予想される。

2. 防除対策

- (1) 防除ガイドに準拠し、薬剤散布を実施する。
- (2) 被害株率が 50%に達したときを散布時期の目安とする。ただし、幼虫に対する薬剤の効果は、齢が進むにつれて低下するので、散布適期を逸しないよう注意する。
- (3) 上記の防除の 2 週間後以降も被害が進展するときは、追加散布を検討する。

C. あぶらな科野菜

軟腐病	発生量：やや少
-----	---------

1. 発生経過と予報の根拠

- (1) 軟腐病は高温多雨および多窒素栽培で多発する。
- (2) 9 月の気温は平年並で、降水量はやや少ないと予報されている。
- (3) 以上のことから、発生量は平年よりやや少ないと予想される。

2. 防除対策

- (1) 多窒素栽培を避ける。
- (2) 防除ガイドに準拠して薬剤の予防散布を行う。
- (3) 耐性菌の出現を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。また、オキシリニック酸剤の低感受性菌が出現している地域があるので注意する。

モンシロチョウ 発生量：やや多

1. 発生経過と予報の根拠

- (1) 予察ほのキャベツにおける8月の幼虫の発生量は、長沼町、北斗市で平年より多い。
- (2) 9月の気温は平年並、降水量はやや少ないと予報されている。
- (3) 以上のことから、発生量は平年よりやや多いと予想される。

2. 防除対策

- (1) 成虫の飛来が目立ち産卵の多いほ場では、防除ガイドに準拠して薬剤散布を行う。
- (2) 防除にあたっては他の害虫の発生も考慮して、効率的な防除体系を組み立てる。

コナガ 発生量：並

1. 発生経過と予報の根拠

- (1) フェロモントラップによる8月の誘殺数は、長沼町では平年より少なく、北斗市、芽室町、訓子府町では平年並である。
- (2) 予察ほのキャベツにおける8月の幼虫の発生量は、長沼町で平年並、北斗市では上旬は平年より多かったが中旬には平年並となっている。
- (3) 9月の気温は平年並、降水量はやや少ないと予報されている。
- (4) 以上のことから、発生量は平年並と予想される。

2. 防除対策

- (1) 本種は薬剤抵抗性が発達しているため、防除ガイドに準拠し、異なる系統の薬剤によるローテーション散布を実施する。
- (2) 防除にあたっては他の害虫の発生も考慮して、効率的な防除体系を組み立てる。

ヨトウガ（第2回） 発生期：既発（並） 発生量：やや少

1. 発生経過と予報の根拠

- (1) あぶらな科野菜における発生量は平年よりやや少ないと予想される（てんさいの項を参照）。

2. 防除対策

- (1) 防除にあたっては他の害虫の発生も考慮して、効率的な防除体系を組み立てる。

D. りんご

黒星病 発生量：並

1. 発生経過と予報の根拠

- (1) 黒星病は平均気温 15～20℃で多湿条件が続くと多発する。
- (2) 長沼町の予察園（無防除）での発生量は、「昂林」では平年よりやや多く、「つがる」では平年並に推移している。余市町の予察園（慣行防除あり）では発生が認められていない。
- (3) 8月3半旬の巡回調査によると、一般園での発生は認められていない。
- (4) 9月の気温は平年並で、降水量はやや少ないと予報されている。
- (5) 一般園においては、適切な防除の実施により少発生が続いている。
- (6) 以上のことから、発生量は平年並と予想される。

2. 防除対策

- (1) 防除ガイドに準拠して、薬剤散布を継続する。特に葉に発病が認められている場合は、果実への感染を防ぐため、十分量の薬液を丁寧に散布する。

斑点落葉病 発生量：やや多

1. 発生経過と予報の根拠

- (1) 斑点落葉病は高温多湿で多発し、特に2～3日の連続した降雨で急増する。
- (2) 長沼町の予察園（無防除）の「王林」での発生量は、平年より少なく推移している。余市町の予察園B（慣行防除あり）の「つがる」では、発生が認められていない。
- (3) 8月3半旬の巡回調査では、感受性品種を調査対象としている渡島の「レッドゴールド」で発病率 10.4%、留萌地方の「デリシャス」で発病率 29.0%と発生量が多くなっている。また、胆振地方の「つがる」においても発生が認められている。

- (4) 9月の気温は平年並で、降水量はやや少ないと予報されている。
- (5) 以上のことから、発生量は平年よりやや多いと予想される。

2. 防除対策

- (1) 防除ガイドに準拠して、黒星病との効率的な防除で対応し、薬剤散布を継続する。
- (2) デリシヤス系等の感受性品種を栽培している場合には発生に注意する。

モモシンクイガ 発生量：並

1. 発生経過と予報の根拠

- (1) 予察園のフェロモントラップにおける誘殺数は、長沼町（無防除）、余市町（慣行防除あり）ともに7月6半旬～8月1半旬は平年より多かったが、以降は平年並に推移している。
- (2) 9月の気温は平年並、降水量はやや少ないと予報されている。
- (3) 以上のことから、発生量は平年並と予想される。

2. 防除対策

- (1) フェロモントラップ等で発生消長を把握し、必要に応じて薬剤散布を継続する。

ハダニ類 発生量：やや少

1. 発生経過と予報の根拠

- (1) 予察園におけるナミハダニ、リングハダニの発生量は、長沼町（無防除）、余市町（慣行防除あり）いずれにおいても平年より少ない。
- (2) 9月の気温は平年並、降水量はやや少ないと予報されている。
- (3) 以上のことから、発生量は平年よりやや少ないと予想される。

2. 防除対策

- (1) 同一系統の薬剤を連用すると薬剤抵抗性が急速に発達するので、防除ガイドに準拠して適正な防除を実施する。

キンモンホソガ 発生量：並

1. 発生経過と予報の根拠

- (1) 予察園におけるフェロモントラップ誘殺数は、長沼町では平年並で、余市町（慣行防除あり）では平年より少なく推移している。
- (2) 予察園における幼虫被害は長沼町で平年並で、余市町では平年より少ない。
- (3) 9月の気温は平年並、降水量はやや少ないと予報されている。
- (4) 以上のことから、発生量は平年並と予想される。

2. 防除対策

- (1) 防除ガイドに準拠して薬剤散布を実施する。

農薬は適切に保管管理及び処分しましょう!!

■ 農薬の保管管理等に当たって

農作業も終盤となり、農薬の使用も少なくなりますが、次年度に向けて適切に保管管理を行ってください。

- 1 農薬は乾燥した冷暗所に保管箱又は保管庫を設置し、施錠して保管してください。
- 2 農薬の誤用を防止するため、種類別に分類整理して保管してください。特に除草剤は、誤って使用すると薬害等の被害を招く恐れがあるので、他の農薬と明確に区分してください。
- 3 毒物又は劇物に該当する農薬は、毒物及び劇物取締法により容器や包装、保管場所への表示等が定められているので、これを遵守してください。
また、消防法に基づく危険物に該当する農薬は、貯蔵及び取扱いの基準が定められているので、これを守ってください。
- 4 誤飲等を防ぐため、農薬は他の容器への移し替えや小分け、特に食品容器への移し替えは行わないようにしましょう。
※ 昨年、道内でも飲料ペットボトルへの移し替えによる誤飲事例がありましたので、絶対に移し替えはしないようにしましょう。
- 5 使用済みの農薬の空容器は、他の用途には絶対に使わないでください。
また、農薬の空容器及び残農薬の処分に当たっては、関係法令に基づき適正な処分に努めてください。
なお、農薬の空容器の処分に当たっては、容器に農薬が残らないよう容器内の農薬を適切に除去してください。

農薬に関してのお問い合わせは

道庁農政部生産振興局技術普及課（TEL:011-231-4111(内線)27-838）

北海道病虫害防除所（TEL0123-89-2080）

または最寄りの総合振興局・振興局農務課にご照会ください。

登録情報や農薬取締法等については

農林水産省ホームページの「農薬コーナー」(<http://www.maff.go.jp/nouyaku/>)をご覧ください。

付 記

北海道地方 3か月予報 (9月から11月までの天候見通し)

平成27年8月25日
札幌管区气象台 発表

<予想される向こう3か月の天候>

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

この期間の平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

- 9月 天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。降水量は、平年並または少ない確率ともに40%です。
- 10月 天気は数日の周期で変わるでしょう。北海道日本海側では、期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多い見込みです。北海道オホーツク海側・太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。気温は、平年並または高い確率ともに40%です。
- 11月 北海道日本海側・オホーツク海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多いでしょう。北海道太平洋側では、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。気温は、平年並または高い確率ともに40%です。降水量は、北海道太平洋側で平年並または多い確率ともに40%です。

<向こう3か月の気温、降水量の各階級の確率(%)>

<<気温>>

[北海道地方]

3 か 月	低い	平年並	高い
9月	30	30	40
10月	20	40	40
11月	20	40	40

<<降水量>>

[日本海側・オホーツク海側]

3 か 月	少ない	平年並	多い
9月	40	40	20
10月	30	40	30
11月	30	40	30

[太平洋側]

3 か 月	少ない	平年並	多い
9月	40	40	20
10月	30	40	30
11月	20	40	40